

光風台 月1 通いの場事業

たのき
楽脳筋
「通いの場」
広場
光風台小域ネット

イントという。スローな動きでは瞬発力が使えないことから、自ずと筋肉に負荷がかかる。加えて、参加者は運動部位へ自らの判断で1～6 kgのウエイトを装着し、筋肉への負荷量を調整する。

こうして、右手・左手、右足・左足へと唄声とともに曲ごとにウエイトを付け替えながら、トレーニングが進む。記者も真似事をしてみたが、これが結構な運動量であることを実感した。

ひと汗かいた後はティタイム。意外と質素だった。スティック袋に入ったコーヒーやミルクティー、こぶ茶や紅茶などで自分たちでお湯を注ぐ。

和やかな談笑のひと時が過ぎてゆく。一息

ついた後は脳トレへと
つづく。記者はテー
ィムに参加者の声を聴
いてみた。

◇Aさん・男性、『数年
前、脳梗塞を患った。自

した機会に恵まれ感謝している。』と、参加理由を語ってくれた。

【ご本人の意向により匿名とさせて頂きました。】

光風台小域福祉ネットワーク 高橋 弘子さん

弘子さん。昭和12年父の影響を強く受けた東京都目黒区生まれ。高橋さんが本格的な奉仕活動のスタートさせ5人兄妹の長女として

茨城県土浦にある東生委員としても活躍。京都の児童養護施設で退任後も高齢者の様々な生活相談にも応じて

いる。



Portrait of Professor Tetsuko Kato, a woman with short dark hair and glasses, wearing a plaid vest over a dark top. The photo is positioned to the left of her name and title.

として児童福祉活動に携わっていた。父の口癖は、『自分が動けるときは人の役に立ちなさい』だったという。当時、子育てをしなから働ける道として、高橋さんは会社務めを止め、美容師の道を選択。資格取得の後に美容院を開業していた。

城県知事表彰を受賞している。（昭和44年）
昭和58年に光風
台へ転居。PTA活動
を通じて知り合った仲
間と共に、高齢者福祉

は、通算56年にもなり正に積み上げてきたキャリアが、今ここに活き、地域スタツフを束ねる原動力として求心力の要を成している。

光風台小域福祉ネットワーク・ボランティアスタッフのみなさん

〔前列左から〕 小坂橋玲子さん、関口ユウ子さん、古川清子さん、高橋弘子さん
〔後列左から〕 白井美奈子さん、前田枝美子さん、長谷川国子さん、間所芳子さん
浅田千代子さん、進藤誠さん、高橋春江さん、島田登美子さん、川上保さん、中田三千代さん

地域の『絆』を深めるために

賛助会員・加入の御礼

三和地区 社会福祉協議会
会長 泉水 房治

地域社会においては、「支え合う」「助け合う」力が希薄化し、様々な課題・問題点が顕在化しております。これを解決するためには、地域の「絆」を深め、相互に支え合う社会を構築していくことが求められています。

地区社協では、地域福祉を推進するため、地域の多くの方々のご協力、ご支援を得ながら事業展開をしているところですが、これらの活動を推進していくための自主財源として「賛助会費」の拡充が重要となっております。

平成三十年度も、深いご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
ご協力いただいた「賛助会費」は、福祉増進・心豊かなまちづくりを図るため有効活用させていただきます。

回顧録



市原市小域福祉ネットワーク代表
市原市社会福祉協議会理事
三和地区社会福祉協議会理事

谷 光彦

シリーズ ③

突然、私の視界が漆黒の闇へと変わった。一瞬にして意識が遠のく。痛みはなぜか感じなかった。気付いたのは「カチャ・カチャ・カチャ」という金属音だった。そこは病院、医療クルーの姿が目についた。
昭和43年2月19日、私は機動隊員として学園紛争に

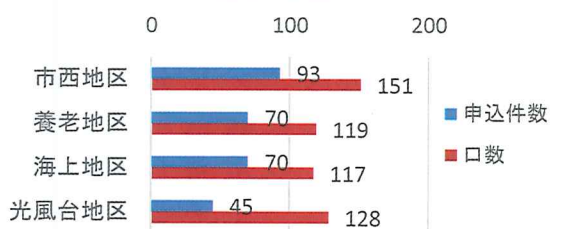
揺れる駿河台の明治大学に向っていた。小雨が降る寒い日だった。荒れ狂う学生達の排除に立ち向かっていったが、どこからともなく、大きな石が私の顔を直撃したのだ。気付いた瞬間、立ち上がるうとしたが、吹き出す血潮が私の顔を真赤に染めた。

後5分、意識が戻らなければ命に係わる状況だったと伝えられた。その時、私は初めて投石で負傷した事実を悟った。前年の羽田闘争以降、学生を中心とした反社会的な紛争は留まる気配もなく、一般市民をも犠牲とする社会不安を巻き起こしていた。負傷から回復した私は、なおさらのことどんな大義名分があろうともこんな暴力を法治国家として決して許してはいけな

【平成30年度賛助会員申込結果】（12月末現在）

- ・申込件数 : 278件
- ・申込口数 : 515口(1口1,000円)
- ・申込受領金額 : 515,000円

賛助会員地区別内訳



※賛助会員は、通年受け付けております。
地区社協活動にご賛同頂ける方は、一口千円からお申込みを頂けます。皆様のご支援・ご協力をお願い致します。
受付はサンハート窓口まで。

- 申込口数: 20口
- 申込口数: 10口
- 市原市急力クリニッククラブ馬立様
- 医療法人社団睦月会
- たむら医院様(光風台)
- むらかみ歯科様(光風台)
- 村上 利男様(光風台)
- 申込口数: 5口
- 梅木歯科様(光風台)
- 喜多見 光江様(二日市場)
- 光風台5東グリーンクラブ様
- 斉田自動車(株)様(土宇)
- 進藤次子様(光風台)
- セブンイレブン光風台店様
- 泉水建材(株)様(中谷原)
- 千葉中央新聞(株)ASA光風台店様

風に魅せられて

土宇町会 民生委員 服部 郁夫

- ① 風の魅力はなんでしょう？私が思うものを挙げてみます。
- ② まずは大空に揚げる爽快感
- ③ 作る楽しみ。特に創作風の製作とテストは難しいが面白い。
- ④ 風という画面に、工夫して思う絵をはめ込む楽しみ。
- ⑤ 祝いや記念に風を贈り喜んでもらえること。
- ⑥ 風を愛好する仲間とおしゃべりする楽しみ。

平成最後のこの冬も、八幡にある青少年会館や近隣の小学校で風作り教室の講師をさせて頂いておりますが、二人でも増えることを願っております。



ローカルフラッシュ

試みは『世代をつなぐ』

今回は、川在町会の通いの場を取材しまして、試みに、『世代間をつなぐ』があります。



川在町会が力を入れている試みに、『世代間をつなぐ』があります。この取り組みの狙いは、高齢者側には、子供達との触れ合いを通じ元気を頂くこと。子供の側へは、お爺ちゃん、お婆ちゃんを身近な存在として受け入れてもらおうとの思いが込められています。

川在町会の通いの場ですが、これに養老小の1年生11名の児童が合流。会場は川在協同館。折り紙づくりや、小学校の校歌合唱、子供達から肩たたきのプレゼントも加わり、笑い声が溢れました。この合流開催は昨年から始まりましたが、珍しい取り組み事例として、学校・地域・行政からも賛意が寄せられており、今後も継続を望む識者の意見も届いています。

【川在町会レポーター 岡 奈美】